群馬大学工業会
東海連合支部

2022 年４月オンライン交流会

開催日：2022 年 4 月 17 日（日） 18:00～20:15
会　場：Zoom によるオンライン会
参加者：伊藤(H15C)、清水(49C)、吉平(50C)、鶴岡(44M)、阿部(桂)(46 修 S)、荒居(39S)、松永（47C）
阿部(雅)(47 修 C)、佐野(62W)、、二宗(46M)
倉林（平塚支部）、森口・中村・瀬尾（四国支部）、　　合計 14 名

オンライン交流会参加者は東海連合支部会員のほかに、四国支部や平塚支部から毎回参加がある。さらにその時のテーマにより、他の支部からの参加者も加わることがある。東海連合支部以外の人に対しては、過去に参加経歴のある方に案内メールを出している。それに加えて東海連合支部の会員が友人に連絡して参加するケースも出てきた。このようにいろいろな形で、参加者も広がってきている。

毎回、ミニプレゼンの前に、参加者各自の近況報告をしてもらっている。コロナ禍で、外での活動が少なくなってきて体力維持に苦労しているとの話が多かった。このような場面では一般的に、あそこが痛い、健康診断でこの数字が高い、こんな薬を飲んでいるなどの話になることが多い。しかし今回の参加者は、もっと前向きな話が多い。新たに運動を始めた、ジム通いを再開、シルバー人材センターで働きだした、山菜取りに出かけたなど、制限があるなかでも積極的に自己トレーニングで鍛える（維持する）気持ちがいっぱいの人たちである。

メインのミニプレゼンは、東海連合支部会員であるが今は神戸に引っ越しされた阿部（雅）さんの「前期高齢者のハーフマラソン風土記」である。

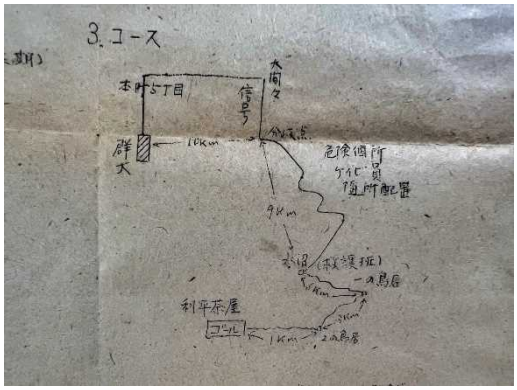
阿部さんは、2009 年からマラソンレースに参加し始めた。退職して豊橋に戻ってきて、地元周辺が高地練習に適し、三河、南信州、遠州の1300m付近の高地へのアクセスが良い事が分かり、トレーニングを始めた。

2020 年に神戸に引っ越してからは、六甲山脈の西端の低山でマスクを着用し呼吸しづらくして練習を進めた。春は更に高地練習として京都の1000m程度の山々を回っている。

このプレゼンの後も、運動とかスポーツ、体を動かすことについての活発な話が飛び交った。

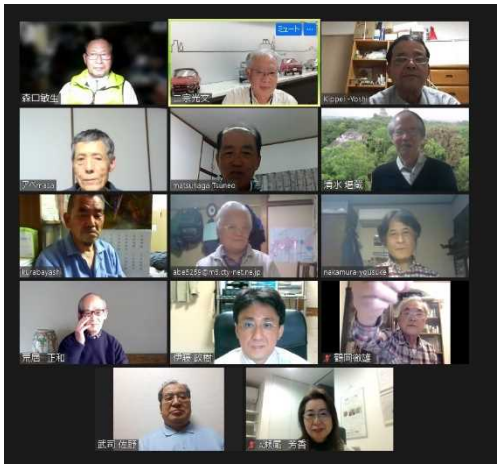
学生時代の思い出として、「赤城競歩大会」が話題になった。各自「思い出」を語ってもらった。

商店街の人にふるまってもらい、飲みすぎて救急車で運ばれた。途中の農家の人が家の中に招い



てくれ、しっかり食事をさせてくれた。これに参加していれば体育の単位が取れた。もう歩くのが嫌になり、自動車部のトラックが来るのを待って、拾ってもらった。

このような行事は地方大学のバンカラさが残った良い伝統であり、途絶えたのが残念の声も出た。



＊＊幹事のつぶやき一言＊＊
コロナ禍で体を動かすことが少なくなりがちであるが、皆さん前向きな姿勢で種々のことに挑戦している姿は素晴らしいと感じた。赤城競歩大会のように、がむしゃらに取り組める行事は今どうなったのか。

（幹事　二宗 46M）